

第3章 まちの実態調査

(1) 市民意向：アンケート調査

都市計画マスタープランの改定にあたり、まちづくりに関するアンケート調査を実施した。
アンケート調査の実施方法や内容は以下に示すとおりである。

1) 調査概要

- 調査対象：18歳以上の市民
- 抽出方法：無作為抽出
- 配布数：2,000通
- 調査方法：郵送による配布、回収（回答はWEBを併用）
- 調査期間：令和5年10月1日～令和5年10月16日

2) 回収結果

- 回収数：755通
- 回収率：37.8%

3) 質問項目

回答者属性	性別、年齢、家族構成、職業、居住年数、お住まいの町名
居住地区について	<ul style="list-style-type: none"> ○土地利用や都市施設等に関する現状の満足度と今後の重要度 ○今後の居住予定 ○土地利用や都市施設等について望むものや必要だと思うもの
小野市全体について	<ul style="list-style-type: none"> ○本市の将来像について望むもの ○工業系の土地利用について望むもの ○市街化調整区域の土地利用について望むもの ○神戸電鉄小野駅周辺や小野商店街の将来像について望むもの ○小野市立図書館東側の土地利用について望むもの ○まちづくりへの住民参加

4) 主な回答

項目	主な回答
本市の将来像	<ul style="list-style-type: none"> ・鉄道やバス、自動車交通などが便利なまち：34.4%（最多） ・子育て施設が充実するなど、安心して子育てができるまち：29.7%（2番目）
工業系の土地利用	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい工業用地を整備し、企業を誘致する（市街地に立地している工場を移すなど）：59.5%（最多） ・工業用地を減らし、住宅地や商業地を整備する：26.0%（2番目）
神戸電鉄小野駅や小野商店街周辺の将来像	<ul style="list-style-type: none"> ・空き店舗・空き地の利活用：18.5%（最多） ・日常生活に便利な商店街・商業施設の充実：18.0%（2番目） ・県内外から人が訪れる本市の玄関口としての整備（例：駅周辺の駐車場整備、案内看板の設置など）：11.8%（3番目）

(2) 現地踏査

1) 概要

- 踏査日：令和6年6月5日
- 踏査箇所：JR 河合西駅、JR 粟生駅、JR 小野町駅、鴨池公園、小野商店街
- 踏査箇所の選定理由：
 - ・人口減少が進行する状況を踏まえ、駅周辺の土地利用を検討する。
 - ・自然環境を活かしたまちづくりを検討する。
 - ・中心市街地の移り変わりや小野商店街における空き家・空き店舗の増加を踏まえ、現状把握と今後の土地利用を検討する。

踏査箇所	現状や学識経験者等意見
JR 河合西駅	<ul style="list-style-type: none"> ・生活利便施設や住宅の集約化 ・駅前広場の利便性向上
JR 粟生駅	<ul style="list-style-type: none"> ・複数鉄道路線の交通結節点 ・周辺観光資源の利活用 ・浸水ハザードへの対応が必要
JR 小野町駅	<ul style="list-style-type: none"> ・駅舎内コミュニティホールの活用 ・駅周辺の区画整序による土地利用の推進
鴨池公園	<ul style="list-style-type: none"> ・自然的資源が豊富 ・ゴルフ場やカフェなど周辺環境と調和したまちづくり
小野商店街	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ活動の場の形成によるにぎわい空間の創出 ・住宅地と共存した商店街のあり方の見直し

(踏査を行った順に記載)



写真 JR 河合西駅前ロータリーの様子



写真 小野商店街の踏査の様子



図3-1 踏査箇所位置図

2) 踏査結果

現地踏査で確認した現状及び学識経験者等による意見は、以下のとおりである。

ア. JR 河合西駅

- ・生活利便施設や住宅を集約することで地域の生活拠点となり得る。
- ・駅前ロータリー、駅前広場の利便性の向上と活用が必要である。
- ・東屋の災害発生時の活用方法の検討や、市民に愛着を持ってもらえるような空間の創出が必要である。
- ・駅周辺や河合小学校周辺は特別指定区域の地縁者の住宅区域が指定されている。

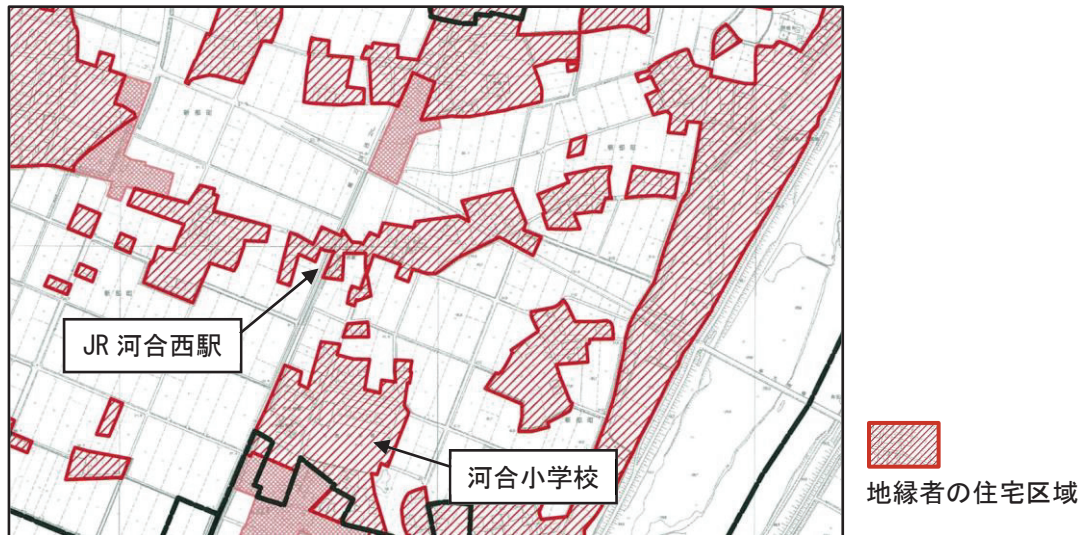


図 3-2 河合西駅周辺の特別指定区域の指定状況

出典：小野市、特別指定区域図（新部町地区）を加工

イ. JR 粟生駅

- ・複数の鉄道路線が乗り入れ、周辺に観光資源があることから観光拠点となり得る。
- ・浸水ハザードエリアへの対応が必要である。
- ・駅周辺は特別指定区域の基幹駅前区域が指定されている。

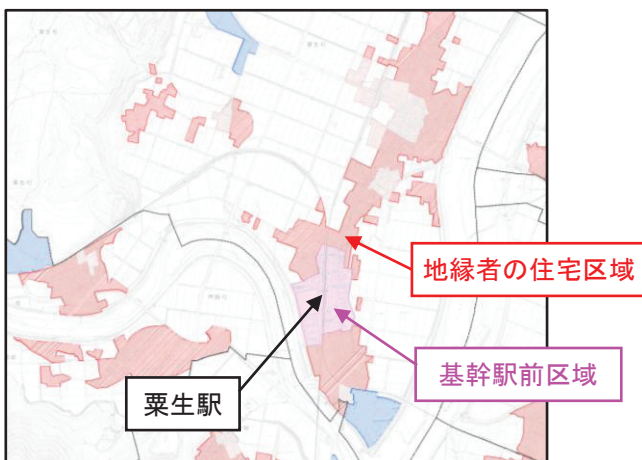


図 3-3 粟生駅周辺の特別指定区域の指定状況

出典：小野市、特別指定区域図（粟生町地区）を加工

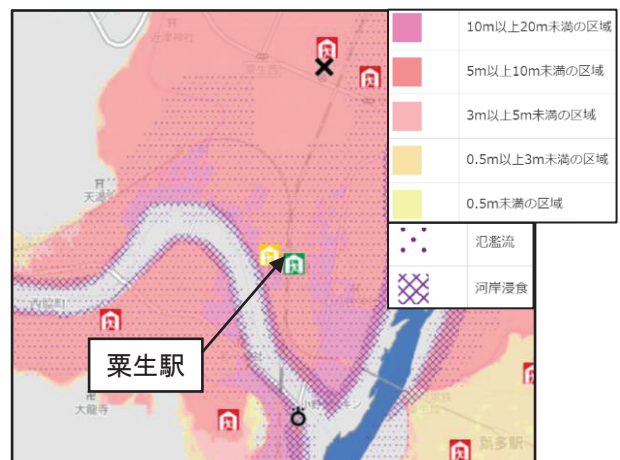


図 3-4 粟生駅周辺の浸水ハザード

出典：小野市、web 版小野市防災マップを加工

ウ. JR 小野町駅

- ・駅舎内のコミュニティホールは、学生が通学で使う駅でもあるため、自習室などとして有効活用ができる可能性がある。
- ・駅周辺は空き家や空き地が多く見られるため、区画を整序することにより土地を有効活用できる可能性がある。

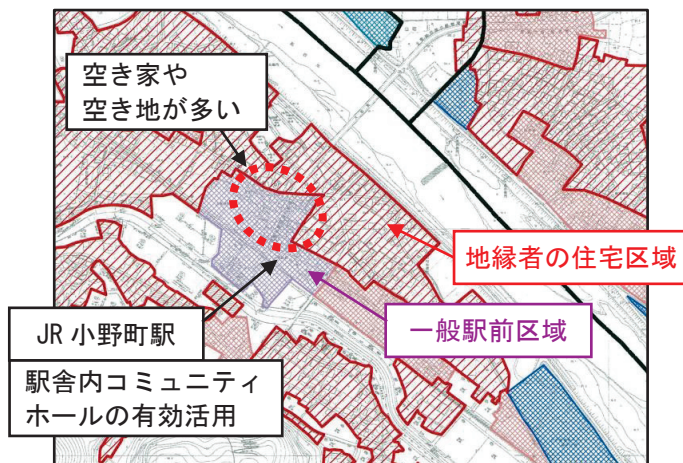


図 3-5 小野町駅の特別指定区域の指定状況

出典：小野市、特別指定区域図（下来住町地区）を加工

エ. 鴨池公園

- ・ゴルフ場、ボート遊覧、野鳥観察など自然的資源が豊富である。
- ・鴨池東側の鴨池公園付近に広場（野球場）があるため、観光に訪れた人が有効に活用できる可能性がある。
- ・鴨池南側には特別指定区域のうち、地縁者の住宅区域を指定している。また、隣接して新規居住者の住宅区域を指定し、同区域は福甸町黒岩地区計画も指定しており、定住促進や自然環境・住環境の保全を進めている。
- ・ゴルフ場やカフェ等が立地しており、周辺環境と調和したまちづくりに配慮する必要がある。

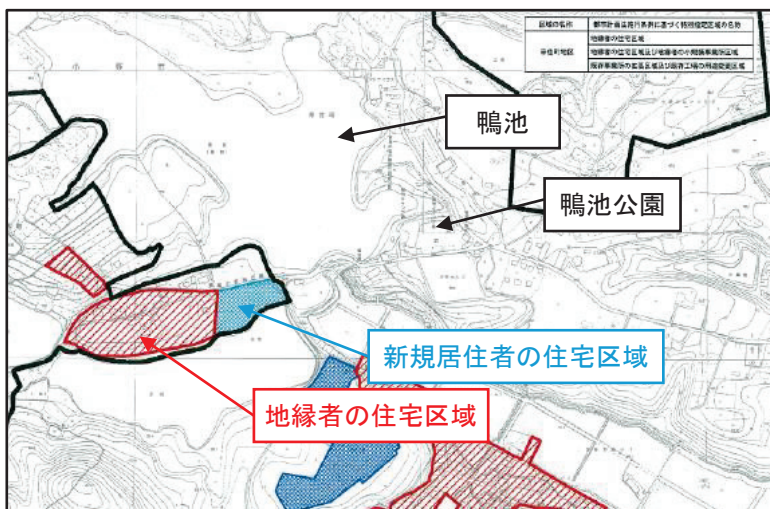


図 3-6 鴨池周辺の特別指定区域の指定状況

出典：小野市、特別指定区域図（粟生町地区）を加工



図 3-7 福甸町黒岩地区計画

出典：小野市、福甸町黒岩地区計画

オ. 小野商店街

- ・公共交通（神戸電鉄小野駅）からのアクセスが良く、本市のほぼ中心に位置することから、地理的に優れている。人が集まるポテンシャルがある。
- ・コミュニティ活動を行政がサポートすることがまちづくりにおいて大切である。
- ・小野サンパークの活用を促進することで、更なるにぎわい空間の創出が期待できる。
- ・市の中心が市役所周辺のシビックゾーンに移っているなか、商店街に求められる機能が変わってきている。
- ・全体を通して空き店舗が増えており、北に行くほど戸建住宅に建て替わっている。
- ・昔ながらの商業地の雰囲気は維持しつつ、部分的に増えてきている住宅地と共存し、調和のとれた空間が理想である。
- ・商業地域としての用途地域が実態と異なっている。小野商店街のあり方を見直す必要がある。

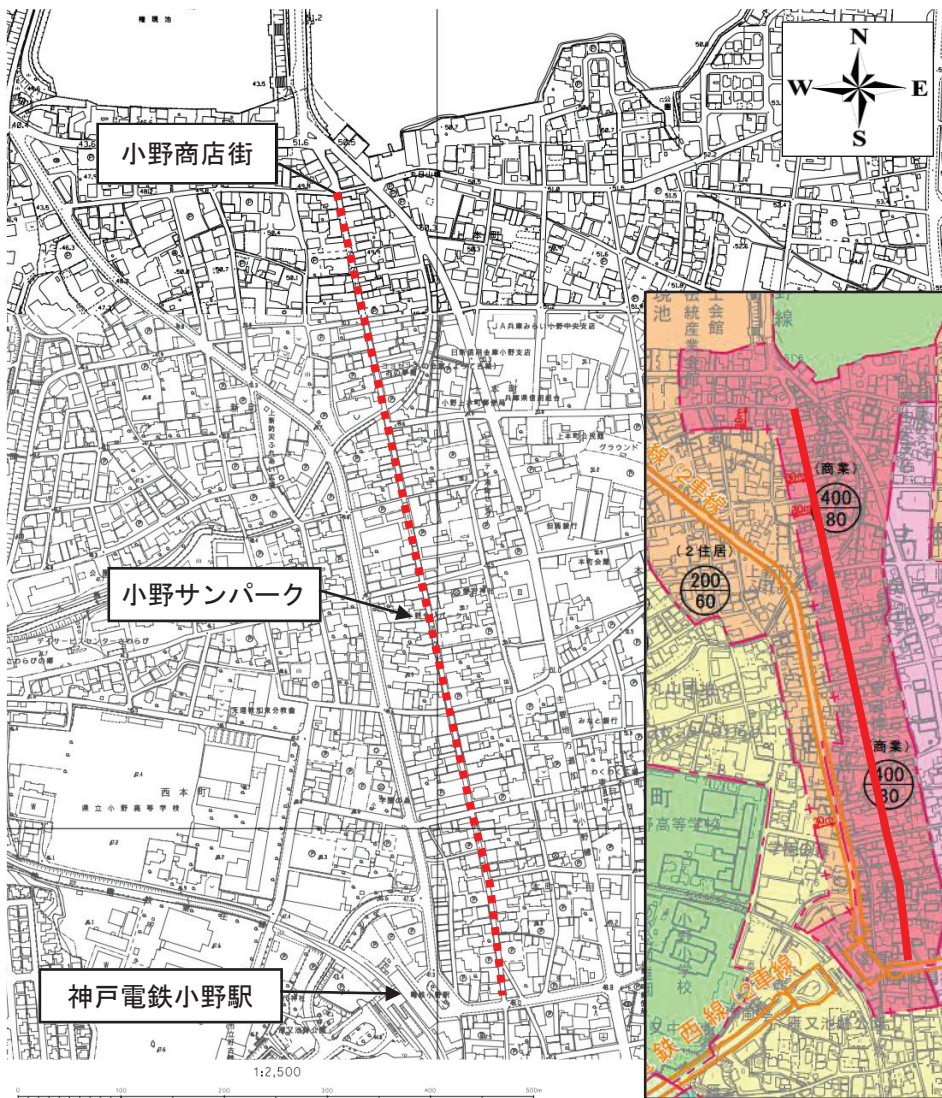


図3-8 小野商店街位置図
出典：小野市、都市計画図を加工

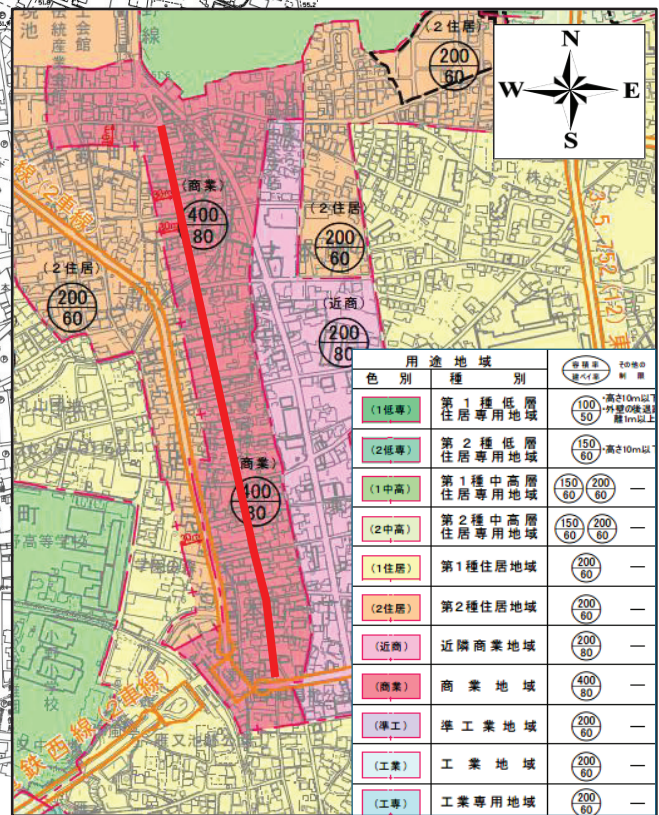


図3-9 小野商店街周辺の用途地域
出典：小野市、用途地域図

(3) 地区別ヒアリング

都市計画マスタープランの改定にあたり、まちづくりに対する市民の意見を把握することを目的として、地区ごとにヒアリングを実施した。ヒアリングを実施した結果、主な意見として次の3点があげられた。

- ・将来的な移動手段や買い物の手法に対する不安が多く、公共交通（鉄道、らんらんバス等）に対する関心が高かった。
- ・少子高齢化に伴う空き家や空き店舗の増加が今後見込まれることから、建物の維持管理や利活用に関する不安の声があがった。
- ・多くの地区では町民同士の付き合いを重んじる風習が残っており、人口減少が進むなかで地域コミュニティを維持していくために、市民が気軽に集まれる場を求める意見や、交流人口の増加によるまちの活性化を求める意見などがあがった。